# 第60回研究発表大会に寄せて

東京都中学校教育研究会
会長　福沢　俊之

新型コロナウイルス感染症の流行は、まさに打ち寄せる波のように、未だに社会生活を脅かしています。それでも私たちは、ウイルスとの共存を模索し工夫をしながら、さまざまな活動を前に進めてきました。東京都中学校数学教育研究会（以下、都中数と記す）でも今年度８月には、感染症対策に万全を期して数学指導技術向上研修会を３年ぶりに集合・対面型で開催いたしました。また昨年度、会場に参集しての開催を準備してきたものの直前にオンラインでの開催を決断した本研究発表大会は、今年度、第 60 回の節目を迎えます。今回は、事前申込制をとりながらも人数制限はせず、会員の皆様にお集まりいただいての開催の準備を進めております。安全で有意義な大会となるよう早くからご尽力をいただいている方々に感謝申し上げると共に、本研究集録が皆様のお手元に届くとき、皆様と会場でお会いできていることを心より期待しております。

都中数では、研究部に８つの委員会（教育課程・数式・関数・図形・確率統計・評価・導入法・指導法）を組織し、学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導の工夫・改善に向けた実践的な研究を行っています。年２回、６月と 10 月に開催する委員長研修会では、各委員会の活動状況を交流し合っていますが、コロナ禍と相まって校務を抱えながら集まることが難しい中、オンライン会議や SNS を活用したり時間や日にちを工夫したりするなど、地道に研究活動を継続している様子を伺い知ることができます。都中数の目的である「会員相互の自主と協調のもとに、中学校数学教育全般にわたる研究及び活動をし、中学校教育の向上をはかること」の実現は、委員会の活動があってのことであり、役員会としての助言、支援、理解を大切にしているところです。当日は各委員会を４つの分科会に分けて、一年間取り組んできた研究を発表いたします。現行学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」をはじめ、学習評価や ICT を活用した授業など、現在の数学教育の課題に真正面から取り組んだ発表は、必ず明日からの授業やこれからの数学教育の進む方向を示唆するものであると考えています。

また、都中数の調査部では、毎年「数学教育推進に関わる実態調査」を実施しています。中学校における数学教育推進上の諸課題や数学科教員の意識等について調査を行い、今後の授業改善に役立てることを目的としたもので、都内の全公立中学校を対象として回収率は 98.4%になります。特に今年度は、導入法、確率統計の両委員会とともに、第 77 回関東甲信静数学教育研究山梨大会にて調査結果と分析を発表しました。経年比較により東京都全体の数学教育に関わる傾向、推移と共に、ICT に関わる活用状況や「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する実態など、新しい動きの状況も捉えることのできる貴重な資料となるものと自負しております。

このように、研究発表会や研究集録の内容が、日々学校現場で数学の授業を通じて生徒と向き合っている先生方の実践に役立ち、延いては東京都の中学校数学教育の発展に寄与することを強く願う次第です。

最後になりましたが、本研究発表大会の講師として、国立教育政策研究所学力調査官、伊吹竜二先生からは「全国学力・学習状況調査を踏まえた学習指導の改善・充実」についてご教示いただきますことに深く感謝申し上げます。また、第 33 代会長の小宮賢治先生、第 37 代会長の元木靖則先生、第 38 代会長の宮本泰雄先生、第 42 代会長の久我正次郎先生には、各分科会の指導助言をお引き受けいただきましたことに厚く御礼申し上げます。